

## 鶴ヶ塚古墳(加須市)

北側から見た鶴ヶ塚古墳/円墳/現状は方形のように削られてしまっている



近寄ってみる



北側の墳丘裾を東から西方向に見る



## 鶴ヶ塚古墳と大松

一見方墳のように見えるが、重要遺跡調査書には径十五メートル、高さ三メートルの円墳と記載されている。しかし、かつては前方後円墳ではなかったかとも思われる。

南側には手子堀川が接して流れ、西から北に灌漑水路が周溝のように接して設けられている。墳上は殆んど平らに削られ、天照皇大神、稻荷社、浅間社等がある。

浅間社は、戦前までは北に接してあった浅間塚上にあつたが、戦後、ここに移されたものである。地元ではこの塚を鶴ヶ塚とは呼ばず、稻荷塚とも呼んでいたという。

また、この古墳上には樹令三百年余といわれる大松がある。この松は、目通り直径一・二メートル余りもあり、四方に張り出した枝振りには自然に整っていて、その姿は一幅の風景画を思わせるものがある。

昭和五十五年三月

加須市

古墳の看板もある



東側から見る



南側を東から西方向に見る/手子堀川が接している



南側から手子堀川越しに墳丘(といっても基壇のようだが)を見る





南側から全体を見る



西側から見る



北西角から東方向を見る



北西角から南方向を見る/この灌漑用水路は周濠の名残りであろうか



さて、正面は墳頂が平らに削られた古墳上に鎮座する天照皇大神宮



神額には天照皇大神宮とある



拝殿



拝殿の右奥が本殿





鶴塚は円墳でおよそ1500年前のものであると記されている



## 鶴塚の大松

昭和二十四年六月指定

この松は、加須市内で唯一の大樹と称され、樹齢約三百年余といわれ目の高さでの木の幹の太さは直径一・二メートル余り、大きな亀甲型の皮肌で四方に張り出した枝振りは自然に整い昔を思わせるおもむきを成している。

この大松が戦前は数本あったが、風害や用材として代られた。

鶴塚周辺は、水禽群生の地であったのを羽生領代官大河内金兵衛久綱が、元和七年（一六二一年）羽生町大字町屋の名主岡戸三左衛門に命じ開墾して町屋新田と称した。

鶴塚は円墳でおよそ一五〇〇年前のものである。

昭和五十四年三月

加須市教育委員会

浅間社であろうか



社殿の背後を見る



社殿の右手を見る





さまざまな石造物があった





線画が描かれている









南方向を見る



さて、これはすぐ東側にある石造物群





## 十九夜塔

所在地 加須市大字町屋新田

この十九夜塔は、地元では十九夜様と呼ばれ、近在の各家庭の女性には安産の神様として大変敬われており、産前、産後には必ずお参りをする風習になっている。

昔は、安産や育児、婦人の病の祈願が盛大に行われていたが、現在は、地元の各家庭の主婦が年二回、春と秋の彼岸前後に当番の家に集まり、手料理を作り、それを食べながら話し合いをし、十九夜塔にお参りをしている。

なお、この十九夜塔は、碑文によれば天保六年（一八三五年）の造立である。

昭和五十六年三月

加須市

これが十九夜塔/江戸時代後期の造立



参考ホームページ

[http://www.asahi-net.or.jp/~fx3i-aid/kofun/saitama/69\\_kazo/tsuru.html](http://www.asahi-net.or.jp/~fx3i-aid/kofun/saitama/69_kazo/tsuru.html)

[http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/kazo\\_turu/](http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/kazo_turu/)



